

QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

聴覚障害のある幼児を持つ フィリピン人の母親への支援



N県のJ市に住むフィリピン出身で温泉施設パートのリディアは25歳、専業農業の夫は56歳で二人の間には、1歳8ヶ月になる健太(男児)が居ます。今は、親子3人で暮らしています。夫の両親は5年前に他界、妹二人は近隣の農家に嫁いでいます。



リディアは、フィリピンから6年前に来日し、J市の温泉施設で働いていたときに、夫と知り合い、結婚、妊娠しました。在胎週数36週、出生体重2,830gで男児の健太が誕生。出産に伴う合併症は無く、新生児聴覚スクリーニング両耳refer要再検査となり、耳鼻科医の訪問^(注)を受けました。
(注) J市は、産院から精密検査可能な耳鼻科医に連絡をし、入院中に耳鼻科医と面談ができる。

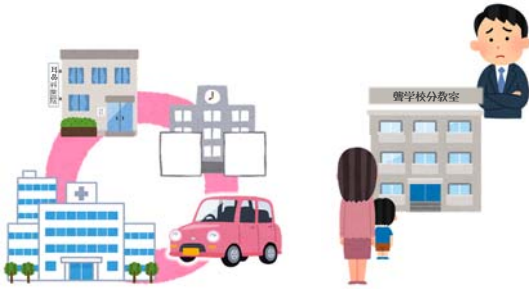


J市では、産院から精密検査に関する情報は、J市の地域の保健師にも周知されるため、リディアと健太が退院後、すぐに保健師の家庭訪問を受けました。





リディアは、一緒に温泉施設で働いていたフィリピン人以外に地域のフィリピン人コミュニティとの交流はありません。家庭では日本語で会話しますが、日中、聾学校分教室に行くとき以外、日本語を使うことがなく得意ではありません。文化の違いや夫が無口なため、家庭では会話が少なく、ご近所や近隣に住む夫の妹家族とも、なかなか打ち解けられません。そのため、産後抑うつになり、家事も子育ても放棄するようになったので、保健師の介入もあり、健太を保育所に預けて、来日直後に働いていた温泉施設でパートタイムで働き始めました。抑うつや育児放棄の傾向は続いています。



リディアは運転免許がなく、地域の耳鼻科医院と大学病院は、夫が連れてゆきます。週2回の聾学校分教室は、歩いて20分ほどのため、リディアが健太を連れてゆき、月1回の本校での指導は、夫と一緒にゆきます。聾学校の両親講座では、難聴児の育て方の勉強会がよく開かれるのですが、両親ともなかなか参加していません。聾学校の教員は、両親がどの程度、家庭で健太について情報を共有しているかはっきりせず困っています。

リディア本人の希望や願い

 ♪ 健太の聴覚や言語が心配
 ♪ 家族に言葉でうまく伝えられない

家族の希望や願い

 ♪ リディアの日本語の会話が気がかり
 ♪ 育児など近隣の親族に支援して欲しい



QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材
 聴覚障害のある幼児を持つ
 フィリピン人の母親への支援

制作著作 Copyright © 2017
 新潟医療福祉大学

原案 Portions Copyright © 2017
 桑原 桂 (新潟医療福祉大学)
